

日本犯罪心理学会

Japanese Association of Criminal Psychology

第 59 回大会プログラム



筑波大学 筑波キャンパス

2021 年 10 月 2 日 (土)・10 月 3 日 (日)

子どもを虐待から守る科学

アセスメントとケアのエビデンス

原田隆之 編

堀口康太, 田附あえか, 原田隆之 著



児童虐待はどこまで解明されているか。データをもとに正確なアセスメントとケアの根拠を携えるための「児童虐待と闘う科学」。

A5判 176頁 定価2,860円

心理職のための エビデンス・ベイス・プラクティス入門

エビデンスを「まなぶ」「つくる」「つかう」

原田隆之 著



「そのセラピーが効く理由」をクライアント=患者に説明しながら心理臨床を実践するための、エビデンス活用ポケットガイド。

四六判 280頁 定価3,520円

非行・犯罪からの立ち直り

保護観察における支援の実際

長尾和哉 著



保護観察における見立て、面接のコツから、犯罪傾向や属性から見た立ち直りへの支援のあり方が、豊富な事例に沿って述べられた実践書。

A5判 200頁 定価3,080円

複雑性PTSDの臨床

“心的外傷～トラウマ”の診断力と対応力を高めよう

原田誠一 著



本書は、複雑性PTSDに関する基礎知識から臨床応用までを網羅した、現在数少ない本格的な臨床書である。

A5判 290頁 定価3,960円

性暴力被害の実際

被害はどのように起き、どう回復するのか

齋藤 梓, 大竹裕子 編著



「性暴力とは何か」。被害当事者の人生に及ぼす影響、回復への道のり、必要な支援を、被害当事者の視点から明らかにする。

四六判 228頁 定価3,080円

子ども虐待とトラウマケア

再トラウマ化を防ぐトラウマインフォームドケア

亀岡智美 著



トラウマインフォームドケア、TF-CBT、アタッチメントなど現代のトラウマケアに欠かせないさまざまな視点を網羅し、臨床に活かす。

A5判 232頁 定価3,740円

臨床心理学

Vol.21 No.3 特集 問いからはじまる面接構造論

増刊第12号 治療は文化である

臨床心理学の今を伝える専門誌 B5判160頁／年6回（隔月奇数月）発行／定価1,760円（増刊2,640円）／年間購読料13,200円（増刊含む、送料小社負担）

精神療法

Vol.47 No.3 特集 オンライン心理相談の最前線

増刊第7号 疾患・領域別最新認知行動療法活用術

わが国唯一の総合的精神療法研究誌 B5判130頁／年6回（隔月偶数月）発行／定価2,200円（増刊3,080円）／年間購読料16,280円+税（増刊含む、送料小社負担）

18・19歳非行少年は、厳罰化で立ち直れるか

片山徒有編集代表
定価2500円＋税



少年法の改正案が提出された。少年法は、5年度の改正でますます厳罰化へ向かうことになる。少年事件事例や少年院出院者の発言などを踏まえて、元家裁判官・元家裁判調査官・少年院長・弁護士らが、法案の問題点を検討。少年法における非行少年の立ち直りなど教育的機能を守るにはどうしたらよいかを考える。

少年事件加害者家族支援の理論と実践

家族の回復と少年の更生に向けて

阿部恭子編著

定価2700円＋税



少年事件の加害者家族に焦点を当て、少年事件の保護者への支援の意義につき、刑事法学者・少年事件に携わる実務家や支援者によって理論を構築し、具体的な支援について多数の事例をもとに法的支援・社会的支援・心理的支援のあり方を考える。

再犯防止を目指す刑務所の挑戦

手塚文哉著

定価2000円＋税



官民協働の刑務所プロジェクトには地域住民への説明会、役所内での調整などの困難がともなった。創設後は社会復帰・再犯ゼロをめざし、先進的な教育・職業訓練プログラムで、官民の職場文化の違いを乗り越えてきた。元刑務官が、プログラムの実際に触れながら、あたらしい刑務所の試みを紹介する。

犯罪社会学研究45号

日本犯罪社会学会編 定価3200円＋税

「課題研究」コミュニティと犯罪

野田陽子・竹中祐二・島田貴仁・原田豊・平井秀幸

「自由論文」

新海浩之・竹原幸太・湯山祥・藤野京子



現代人文社

発売：大学図書

東京都新宿区四谷 2-10 ハツ橋ビル7 階
TEL 03-5379-0307 FAX 03-5379-5388
<http://www.genjin.jp>

◆オンタイム発表スケジュール◆

2021年10月2日(土)		2021年10月3日(日)		
	zoom1	zoom2	zoom1	zoom2
9:00	開会挨拶			
9:10	休憩			
9:30				
	企画シンポ1 新型コロナ下での処遇・支援(谷)	企画シンポ2 特殊詐欺の心理学	企画シンポ5 若手の犯罪心理学研究の発展	共催シンポ 司法・犯罪分野における科学者実践家モデル
11:30	休憩		休憩	
13:00	総会		特別講演	
13:45	休憩			
14:00				
	企画シンポ3 認知行動療法の非行犯罪臨床	企画シンポ4 子どもを性犯罪から守るには		
16:00				

ポスター・口演・公募シンポはすべてオンデマンドのみの実施

大会参加者へのご案内

1. 大会受付

本大会はオンライン開催となります為、事前に参加登録をお済ませいただき、大会ページ <https://www.jacpsy.jp/meeting> に設置されます「Web 会場」ボタンより、ログイン ID（会員は会員番号）と大会参加登録メールアドレスでログインください。

ライブ配信につきましては、第 1 日目は 8 時 45 分より、第 2 日目は 9 時 15 分より、それぞれ日程表の Zoom リンクからログイン可能となります。

2. 大会諸費用

大会参加費 正会員 前納=6000 円 当日=7000 円

正会員^{学生} 前納=2000 円 当日=3000 円 *学生証のコピー必須

臨時会員（一般） 7000 円（前納・当日）

臨時会員^{学生} 3000 円（当日のみ） *学生証のコピー必須

懇親会費 オンライン開催につき、今回は行いません。

*領収書は、参加費入金決済後に申込システムにてダウンロードする形式となります。

*参加証は発行しません。

*名誉会員の大会参加費は、無料です。

3. 発表形式

特別講演、公募シンポジウム、口頭発表は事前に収録していただいた動画をオンデマンド配信します。ポスター発表は、e ポスターを作成していただき、オンラインで配信します。いずれも、10 月 2 日から 31 日まで視聴可能です。ただし、質問受付期間は、10 月 4 日から 17 日までです。特別講演は質問を受け付けません。

大会企画シンポジウムはライブ配信に加えて後日オンデマンド配信を行います（アップロードに時間を要するため、配信可能日は大会サイトで後日発表します）。

4. ライブ配信参加時の注意事項

ログイン時には、必ず漢字フルネームで氏名を表示するようにしてください。氏名が表示されていない場合は、退出していただく場合がありますので、ご注意ください。また、マイクはミュート、ビデオはオフでお願いします。全体討議、質疑応答で発言する際は、マイク・ビデオともオンにしてください。発表の録画、録音などはしないでください。

5. 総会

第 1 日目の 13 時 00 分から 13 時 45 分までライブ配信にて行います。

6. 抄録原稿の提出方法

Web 上での提出になります。2021 年 9 月 1 日（水）までに，発表申込と同じ申込システムから投稿してください。

抄録原稿に関する問い合わせ先

日本犯罪心理学会第 59 回大会抄録原稿問い合わせ受付係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 332-6 （株）国際文献社内

E-mail: jacp59@bunken.co.jp

口頭発表のご案内

1. 口頭発表

口頭発表は、一般発表のみです。セキュリティの観点から事例発表は行いません。

発表時間は、12 分です。口頭発表は、PowerPoint を用いて mp4 形式の動画を作成していただき、申込システムからアップロードしていただきます。また、質問受付期間（10 月 4 日～17 日）に寄せられた質問に回答をしていただきます。

2. 発表成立の要件

あらかじめ定められた方法で動画を作成し、寄せられた質問に回答することにより、発表が成立したと認められます。

3. 責任発表者、連名発表者

プログラムで○印が付いている方が責任発表者です。

ポスター発表のご案内

1. ポスター発表

ポスター発表は、一般発表のみです。セキュリティの観点から事例発表は行いません。

ポスター発表では、e ポスターを pdf で作成していただき、これを申込システムからアップロードしていただきます。ポスターは、最上段に、題目・氏名・所属を明記してください。また、質問受付期間（10 月 4 日～17 日）に寄せられた質問に回答をしていただきます。

2. 発表成立の要件

ポスター発表では、あらかじめ定められた方法で、pdf 形式での e ポスターを作成し、寄せられた質問に回答することにより、発表成立が認められます。

3. 責任発表者、連名発表者

プログラムで○印が付いている方が責任発表者です。

矯正処遇の3原則を処遇現場にいかすには リスク・ニーズ・反応性原則（RNR）の実践

演者 James Bonta （ジェームズ・ボンタ）

カナダ公共安全局矯正研究部長、オタワ・カールトン拘置所首席心理学者などを歴任。カナダ心理学協会フェロー。

主著： 『犯罪行動の心理学』 北大路書房
The Psychology of Criminal Conduct 6th edition)



世界の犯罪心理学研究と実践を牽引してきたジェームズ・ボンタ博士を招いて特別講演を実施する。講演では、犯罪者処遇の3原則である「リスク・ニーズ・反応性原則（RNR原則）」に関する歴史的背景、その概要を解説する。さらに、研究から導かれたRNRを現実の処遇現場に適用するには何が必要かという実践研究を通して、研究と実践のギャップを埋めるための効果的方法について提案する。

新型コロナ下での処遇・支援

企画者・司会	谷 真如 (法務省保護局)
話題提供者	谷 真如 (法務省保護局)
話題提供者	高橋 智晃 (東京矯正管区)
話題提供者	鈴木 拓朗 (東京大学)
話題提供者	山本 哲也 (徳島大学)
指定討論者	野村 和孝 (早稲田大学)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行という未曾有の危機を受け、主として感染拡大の予防のため、矯正・保護領域における受刑者等との面接場面や地域援助などに、オンライン会議システムを導入しようとする動きが緒に就いている。

一方で、こうした取組は社会内において民間の精神保健・医療機関等で先行しており、種々の実践が重ねられる中で、その有用性と困難さに係る知見が蓄積されつつある。また、諸外国では、インターネットを介した物質使用障害等の遠隔心理療法のエビデンスが報告され、生活のモニタリングとして活用する例も見られる。

そこで、本シンポジウムでは、施設内・社会内の処遇等のオンライン化についてその見通しを共有するとともに、精神保健領域での実践報告を受けて通常の対面の心理支援との相違点や留意点を整理し、これらを踏まえ、矯正・保護領域への示唆と、処遇・支援のオンライン化により拓ける新たな可能性について議論する。

特殊詐欺の心理学

企 画 者	越智 啓太 (法政大学)
企画者・司会	桐生 正幸 (東洋大学)
話題提供者	萩野谷俊平 (明治学院大学)
話題提供者	島田 貴仁 (科学警察研究所)
話題提供者	越智 啓太 (法政大学)
指定討論者	安藤 清志 (東洋大学)

警察活動や安全・防犯行政の最大のテーマは、振り込め詐欺などの特殊詐欺をどのように防げば良いかということである。この問題について、犯罪心理学者もさまざまに取り組んできた。

本シンポジウムでは、この問題について様々な角度から実証的な研究を行ってきたシンポジストがその現状と対策について報告し、今後、我々の研究の方向付けを行うとともに、警察や行政にどのようなサジェストができるのかについて意見交換を行う。

認知行動療法の非行犯罪臨床における応用と課題 —様々な臨床場面での実践を巡って—

企画者・司会	吉村 雅世	(府中刑務所)
話題提供者	鬼頭 真澄	(東京少年鑑別所)
話題提供者	相澤 雅彦	(府中刑務所)
話題提供者	高橋 翔太	(北海少年院)
指定討論者	今村 洋子	(OSS サービス株式会社)
指定討論者	國吉 哉子	(矯正研修所効果検証センター)

認知行動療法(CBT)は、非行犯罪臨床において広く取り入れられており、CBTを理論的枠組みとするグループワークやワークブック等も実施されている。しかしながら、枠組みがきっちりした矯正施設内で行うのか、社会内で生活している人を対象に行うのかによって、様相が異なるであろうと考えられる。また、対象者の年齢、知的能力、問題性の大きさ、動機付けの程度等によって、実施のしやすさ・しにくさが左右され、現場においては、苦慮することも多いであろう。

本来は、定められたプログラムをそのとおり忠実に実施することが原則であるが、対象者に応じた「さじ加減」的な創意工夫がどの程度許容されるのかなど、それぞれの臨床現場における疑問や悩みをシンポジストに話題提供していただき、豊富な臨床経験から、あるいは効果検証の立場から、指定討論者にコメントしていただきながら、本大会のテーマである「研究と実践のギャップを埋める」ような議論を行いたい。

子どもを性犯罪から守るには

企画者・司会	原田 隆之 (筑波大学)
話題提供者	鈴木 款 (ジャーナリスト・フジテレビ解説委員)
話題提供者	涌井 佳奈 (ピアサポート リボンの会)
話題提供者	齋藤 梓 (目白大学)
話題提供者	井上 俊明 (福岡県生活安全課)
話題提供者	原田 隆之 (筑波大学)

子どもを対象とした性加害が大きな社会問題となっている。なかでも、本来なら子どもを守るべき役割を果たすべきである教師が、その立場を悪用して子どもに性加害をする事例が後を絶たない。さらに、事件によって教員免許が失効しても、再取得して再び加害行為を繰り返す例もある。

こうした問題を背景にして、法整備が進められ、本年5月には教員による児童生徒への性暴力対策を強化する「教育職員による児童生徒性暴力防止法」(いわゆるわいせつ教員対策法)が成立した。これは大きな進歩であるが、法律だけでは子どもを守ることには限界がある。

本シンポジウムでは、ジャーナリスト、被害者支援、加害者更生支援の専門家を交えて、さまざまな立場から、われわれ社会が子どもをどのように守っていくべきか、今後どのような取り組みが必要で、どのような課題があるのかなどについて議論を深めたい。

若手の「犯罪心理学研究」の発展に向けて —臨床・社会心理・計量分析・神経科学の研究実例と課題の検討—

企画者・司会	鈴木 拓朗	(東京大学大学院)
話題提供者	讃井 知	(筑波大学)
話題提供者	大山 智也	(筑波大学)
話題提供者	新岡 陽光	(中央大学)
話題提供者	齊藤 知範	(科学警察研究所)

犯罪心理学という言葉が一般にも広がるようになった昨今において、犯罪の加害者や被害者などの当事者に関する研究に関心をもつ若手研究者や学生が増えてきている。

しかし、司法矯正機関に所属していない若手研究者は、このような当事者に対して直接調査を依頼するどころか、接触する機会すら持つことができないのが現状である。さらに、データを得られたとしても、その分析方法の選択肢が限られている場合も少なくない。

そこで、本シンポジウムでは、犯罪心理学に関心がある若手研究者が自身のリサーチクエストを達成するためにどのような研究計画を立てることができるのか、その際の工夫や手がかりを得ることを目指す。

また、多様な分野の若手研究者を招集し、自身の研究経験について紹介するとともに、熟練の研究者による指定討論やオーディエンスとの質疑を通して、研究方法の選択肢について議論していく。

司法・犯罪分野における科学者-実践家モデルに基づく 公認心理師の社会貢献

企画者・司会	原田 隆之	(筑波大学)
話題提供者	嶋田 洋徳	(早稲田大学)
話題提供者	伊藤 大輔	(兵庫教育大学)
話題提供者	西中 宏吏	(千葉大学)
話題提供者	野村 和孝	(早稲田大学)
指定討論者	浦田 洋	(甲子園大学)

わが国において初となる心理職の国家資格である公認心理師法が2017年9月15日に施行された。公認心理師の養成においては、大学において基礎心理学や研究法の科目を履修することが定められ、また公認心理師試験の出題基準(ブループリント)にも基礎心理学や研究法が到達目標となることが記載されている。これらは、公認心理師に、実践家であるだけでなく、科学者でもあることが必要であるという科学者-実践家モデルに基づく活躍を期待するものであると考えられる。

公認心理師の会では、科学者-実践家モデルの理念に基づいて、公認心理師の支援活動を行ってきたが、公認心理師法が施行されてから数年が経過し、あらためて科学者-実践家モデルに基づく公認心理師の果たす役割について検討し、さらなる社会貢献に寄与していきたいと考えている。

そこで、本シンポジウムでは、司法・犯罪分野における科学者-実践家モデルに基づく公認心理師の活動について議論する。

SY7 シンポジウム7 公募

犯罪・非行臨床に活かすメンタライジング・アプローチ（2）

企画・司会	辻 啓 之（加古川刑務所）
	里 見 聡（大阪矯正管区）
話題提供者	里 見 聡（大阪矯正管区）
	秋 田 悠 希（東京少年鑑別所）
	辻 啓 之（加古川刑務所）
指定討論者	西 村 馨（国際基督教大学）

昨年度に引き続き、犯罪・非行臨床におけるメンタライジング・アプローチの活用について話し合う。今回は、犯罪・非行臨床の様々な現場においてどのようにメンタライジング・アプローチを活用できるか話し合った。今回は、犯罪・非行臨床における人と人との交流において、メンタライズを促進していくために重要と考える視点やサポートについて、大阪矯正管区の里見は間主観性という視点から論じ、東京少年鑑別所の秋田は臨床家が共に考えることで相補的にメンタライジング能力を向上させようとする試みを報告し、加古川刑務所の辻は臨床活動を振り返ることによってその活動におけるメンタライズの促進を図ろうとする取り組みを報告する。最後に、国際基督教大学の西村氏から各話題提供への指定討論を受けて、議論を深めたい。なお、前回同様、録画時にフロアからシンポジウムに参加したい人を招き、シンポジストとフロアとの対話も行う予定である。

SY8 シンポジウム8 公募

少年の立ち直りを支える一共通言語としての動機づけ面接を活用して

企画・司会	有 野 雄 大（法務省法務総合研究所・筑波大学大学院）
話題提供者	中 村 英 司（札幌刑務所札幌刑務支所）
	井 石 真 由（仙台家庭裁判所）
	有 野 雄 大（法務省法務総合研究所・筑波大学大学院）
	山 田 英 治（東京家庭裁判所立川支部）

少年保護手続を巡っては少年法の改正に関心が高まっており、その内容は従来の処遇よりも厳しいものとなることが予想される。そのような中であって、少年保護手続を担う専門職は、人間関係諸科学に基づき、目の前にいる少年に冷静に向き合わなければならない。少年保護手続では多くの機関が関わるが、スルーケアを念頭に、一貫した態度で臨むことが望ましい。それを可能とする一つの鍵となるのが動機づけ面接であると考えられる。動機づけ面接は、少年の福祉と自律性を尊重し、専門職と本人が共に非行からの立ち直りを目指す面接技法であり、また態度であるといえる。本シンポジウムでは、動機づけ面接に造詣の深い実務家にそれぞれの領域における動機づけ面接の活用について報告を求める。その上で、動機づけ面接を各機関に共通する言語とすることを一つの目標とし、動機づけ面接を活用していかに関係機関が手を携え、少年の立ち直りを支えるかを検討する。

SY9 シンポジウム9 公募

司法犯罪領域におけるエビデンスの活用

企画・司会	嶋田 美和（松山家庭裁判所）
話題提供者	嶋田 美和（松山家庭裁判所）
	角田 亮（新潟保護観察所）
	大江 由香（矯正研修所効果検証センター）
	森 丈弓（甲南女子大学）

「エビデンスに基づく実践（EBP）」の必要性が広く認識されているが、実務家がエビデンスに沿った実務を実践しようとする、一筋縄ではいかない現実と直面することが多い。例えば、各機関ではエビデンスに基づいて様々なプログラムが実施され、その効果検証に取り組まれているが、ランダム化比較試験という最も理想的な検証方法は、現実的な制約から実施が困難であり、かといって準実験という手法を採用するとしても、適切な対照群を設定することが難しい。

そこで、本シンポジウムでは、司法（家庭裁判所）、保護（保護観察所）、矯正（少年院や刑務所）の各現場において、研究によって導き出されたエビデンスがどのように活用されているのかを話題提供するとともに、これらの司法犯罪領域の全てにおいて助言者を務めている指定討論者からの質問や提言を受けた上で、議論を深めていく。

SY10 シンポジウム10 公募

矯正施設を退所した発達・精神障害等のある人への就労支援 —就労移行・就労継続支援事業所の実践から—

企画・司会	熊上 崇（和光大学）
企画	鈴木 美乃里（株式会社LITALICO パートナース）
司会	野口 晃菜（株式会社LITALICO パートナース）
話題提供者	鈴木 美乃里（株式会社LITALICO パートナース）
	神崎 寛明（一般社団法人ラフレックス）
	伊豆 丸剛史（厚生労働省 社会・援護局）
	松岡 拓郎（株式会社LITALICO パートナース）

少年院や刑務所から退所した障害のある人を、地域の就労支援事業所はどのように迎えていけば良いのだろうか？また、住まいや生活の支援をどのように行っていけば良いのだろうか？この問いに答えるため、触法障害者を受け入れている就労支援事業所を対象にインタビュー調査を行い、支援モデルを作成した。利用目的や犯罪トリガーへの対応方法が関係機関間でも共有されていることや、触法者が抱えやすい生活面や家族関係への支援も重要であると考えられた。また、就労移行支援事業所においては、就職先への触法歴開示に関して不安や葛藤を抱きながら支援が行われていることが明らかになった。本シンポジウムでは、調査結果および実践モデル報告の他、触法障害者の支援経験のある就労支援事業所の実践や地域生活定着支援センターの役割などを紹介し、矯正施設から退所する人々が安心して生活できるための就労移行・就労継続支援事業所の在り方について議論する。

実務家によるエビデンスの創出：その効用と可能性企画・司会
話題提供者

新	海	浩	之	(府中刑務所)
寺	田	孝		(府中刑務所)
古	根	敏	之	(府中刑務所)
平	野	貴	子	(府中刑務所)
塩	川	涼	太	(府中刑務所)
関	根	智	之	(府中刑務所)
新	海	浩	之	(府中刑務所)
宮	崎	悠	華	(府中刑務所)
森	丈	弓		(甲南女子大学)

エビデンスに基づく実務（EBP）の導入が喧伝されて久しい。刑事施設においても各種の改善指導について全国的な効果検証が実施され始めるなど目覚ましい発展を遂げている。その一方で、現場の実務家としては、効果検証で示されたエビデンスと自分の実践上の知見及び所属する施設の実情との間に直接的なかわりを見つけることに困難を感じる部分もあるように思われる。

そこで、府中刑務所においては、改善指導における指導担当者の意見を取り入れながら独自にデータを収集して分析することにより、現場の実務家の感覚に即した、実務に応用できるエビデンスを創出する取り組みを行った。本シンポジウムにおいては、その結果の一部を報告するとともに、職員側、管理者側の観点から現場における効果検証を可能とする環境及びそのような試みの効用及び限界について考察し、その学術的価値について討議を行いたい。

口頭発表

A. 処遇

OR-01

Complex PTSD に焦点を当てたプログラムの試み

○岡村 麻梨佳, 島田 かおり, 奥村 雄介 (東日本成人矯正医療センター)

要旨

被収容者の中には幼少期に逆境体験を経験した者が多いことが知られている。当センターにて Complex PTSD に焦点を当てたプログラムを行ったため経過を報告する。

OR-02

司法領域における芸術療法の適用に関する研究動向について

○鍋島 宏之¹, 宮本 悠起子², 松本 佳久子³ (¹大阪少年鑑別所, ²神戸少年鑑別所, ³武庫川女子大学)

要旨

司法領域において芸術療法を適用した先行研究を検討し, 加害者臨床における芸術療法の研究動向とその特徴および課題について明らかにする。

OR-03

痴漢事犯者に対する性犯罪再犯防止指導の効果

○新海 浩之, 平野 貴子 (府中刑務所)

要旨

刑事施設において, 性犯罪再犯防止指導受講者の再入所について Cox の比例ハザード分析を用いて検証したところ, 痴漢事犯者の予後が悪いことが示された。

0R-04

少年院での体験が非行からの離脱に及ぼす影響（１）

○林 秋成¹，塩川 友紀子²，里見 聡³，吉原 大樹⁴（¹山口少年鑑別所，²東京拘置所，³大阪矯正管区，⁴法務総合研究所）

要旨

非行・犯罪からの離脱に関する研究や少年院での矯正教育に関する研究を概観し，施設内処遇から社会内処遇へと移行するプロセスやそれらの関連性について考察する。

0R-05

少年院での体験が非行からの離脱に及ぼす影響（２）

○塩川 友紀子¹，林 秋成²，里見 聡³，吉原 大樹⁴（¹東京拘置所，²山口少年鑑別所，³大阪矯正管区，⁴法務総合研究所）

要旨

少年院の仕組みや教育内容，職員との関係性等がどのような在院者の認知的変容を起こし，出院後の立ち直りへ影響を与えているのかを，少年院出院者の語りから分析した。

0R-06

若年受刑者に対するアンガーマネジメントプログラムの効果の検討-P F スタディの質的变化-

○高野 光司¹，田中 大介²，田邊 総男³（¹帝京平成大，²法務省矯正研修所，³相模原市精神保健福祉課）

要旨

若年の暴力事犯者に対するプログラムの前後に，対象者に PF スタディへの回答を求めた。各回答の印象を数値化し，比較することによって，プログラムを通じた対象者の変化を検討した。

B. 非行・犯罪観

OR-07

少年鑑別所入所者の性差から見た女子非行少年の理解と処遇 ―逆境的小児期体験（ACEs）を中心に―

○西澤 朋枝¹，東海林 弓月²，上田 眞之¹，高津 友香¹，西 拓人¹，谷川 雄一¹（¹高松少年鑑別所，²岡山少年鑑別所）

要旨

入所者のデータを男女別に分析し，生育環境，心身の状況，非行・問題行動の特徴等の基礎統計を示すとともに，その性差を踏まえた鑑別，観護処遇の在り方を検討する。

C. 各種犯罪・犯罪者・捜査

OR-08

血の繋がりは児童虐待の重篤化を抑制するのか？

○緒方 康介（大阪大谷大学）

要旨

被害児の救出ばかりが優先されてきた本邦の児童虐待に関して，加害親へ焦点を移し，血縁の有無を示す続柄とケースの重篤性との関連を各種公的統計に基づき分析した。

OR-09

知的障害者に対する取調べにおける障害の気づきと配慮

○渡邊 和美，和智 妙子，横田 賀英子，大塚 祐輔，平間 一樹（科学警察研究所）

要旨

知的障害者を取り調べた警察官に対する面接調査から，障害への気づきと配慮，グラウンドルールの説明，ラポール形成が供述に与える影響について検討した結果を発表する。

OR-10

人口規模を加味した居住地推定手法の検討

○平間 一樹^{1, 2}, 横田 賀英子¹, 大塚 祐輔¹, 渡邊 和美¹ (¹科学警察研究所, ²東京都立大学)

要旨

本研究では、面識のない被害者に対して犯行した性犯罪者の犯行地点、移動の方向性、及び分析エリアの人口規模を加味した居住地推定手法の有効性について検討した。

D. 防犯・被害・地域

OR-11

「ビジネス・サイコパス」と企業内不正

○秋葉 光恵, 原田隆之 (筑波大学)

要旨

多くの企業が、コンプライアンス遵守に多大な労力を払っている。不正行為につながるビジネス・サイコパス特性を測定する尺度を日本の文化的背景のもと開発した。

OR-12

COVID-19 が犯罪発生に与えた影響—時系列解析による関西地方の分析

○森 丈弓¹, 岡本 英生² (¹甲南女子大学, ²奈良女子大学)

要旨

COVID-19 が犯罪発生に与えた影響について、関西地区の刑法犯認知件数のデータを時系列解析の手法で分析した。

E. 査定・評価

OR-13

2×2クロス集計表の検定について

○遊間 義一¹，金澤 雄一郎²（¹兵庫教育大学大学院，²国際基督教大学）

要旨

表題の検定は，Fisher の直接確率法や自由度 1 のカイ二乗分布を用いて行われることがほとんどだが，これは必ずしも正しい方法ではない。本研究では，これを検証する。

OR-14

再犯リスクコミュニケーションに関する予備的検討

○高橋 哲（お茶の水女子大学）

要旨

多職種連携の基盤となる適切な再犯リスクコミュニケーションに関する指針の策定を目的とし，先行研究，論点及び実務上の課題を整理する。

OR-15

特殊詐欺事犯者の心理・社会的特徴

○服部 真人¹，鈴木 愛弓¹，和智 妙子²（¹法務総合研究所，²科学警察研究所）

要旨

詐欺又は窃盗の初入受刑者 410 名に対する調査結果から，特殊詐欺事犯者の事件態様や生活状況，性格傾向等の特徴について，窃盗事犯者やその他の詐欺事犯者との比較により考察する。

OR-16

開放処遇施設における受刑者の逃走リスクについてⅢ

○福場 和雄¹，奥村 俊樹²，菅原 達也³（¹松山少年鑑別所，²松山刑務所，³丸亀少女の家）

要旨

受刑者の逃走リスクを査定するに当たって，適応の過程を明らかにすることは重要である。本研究では，グランデット・セオリー・アプローチの手法を用いて，対象者が適応あるいは不適応していく過程を明らかにする。

OR-17

窃盗，性犯罪加害者のロールシャッハテストの力動的考察

○中村 大輔（神戸臨床心理カウンセリングルーム研心音）

要旨

窃盗，性犯罪加害者の認知特性をロールシャッハテストの反応態様から，主体と対象との関係を力動的に考察し，退行と回復，現実適応及び自我機能などの心理過程を考察する

F. 処遇

OR-18

処遇困難受刑者を対象とした集団芸術療法適用における臨床的変化について

○山口 昭子¹，松元 雅子¹，松本 佳久子²（¹神戸刑務所，²武庫川女子大学）

要旨

精神疾患や高齢に伴う心身機能の低下等，配慮を要する処遇困難受刑者の処遇の検討が課題である。そこで，同受刑者を対象に集団芸術療法を実施し，その臨床的経過を検討する。

OR-19

支援教育過程Ⅲにおける音楽ナラティブ・アプローチの導入と臨床的变化

○松本 佳久子（武庫川女子大学）

要旨

支援教育過程Ⅲ（N3）ならびにコミュニケーションに課題を抱える在院者に対して、「大切な音楽」についての語りを導入した。語りの分析から、臨床的变化を検討する。

OR-20

窃盗再犯防止指導における「音楽ナラティブ・アプローチ」の適用と語りの分析 -感情表現に着目して-

○津村 征吾¹，谷口 肇¹，松本 佳久子²（¹滋賀刑務所，²武庫川女子大学）

要旨

在所者への窃盗再犯防止指導の一環として「音楽ナラティブ・アプローチ」を適用した。その臨床的变化について、感情表現等、非言語行動を含む語りの分析を通して検討する。

ポスター発表

A. 処遇

P0-01

加害者臨床とは何か

○佐藤 璃奈（京都文教大学大学院）

要旨

現在使われ始めた加害者臨床という概念。だがその意味は諸家によって異なる。この研究では、現場の心理臨床家のインタビューを通して加害者臨床とは何かを明らかにする。

P0-02

多文化共生プログラムの社会復帰後における効果と課題

○沼田 好司，徳山 敬枝，池田 有里（瀬戸少年院）

要旨

外国籍在院者の「生きづらさ」緩和のために実施している多文化共生プログラムにおける社会復帰後の効果と課題について，出院者へのインタビュー調査等から分析する。

P0-03

児童自立支援施設におけるアンガー・マネージメントの実施について

○川端 壮康（尚絅学院大学）

要旨

本発表では，発表者らが児童自立支援施設で実施しているアンガー・マネージメントについて報告する。実践を通じて工夫してきた点や，勘所となるポイントについて紹介する。

B. 非行・犯罪観

P0-04

犯罪者に対する原因帰属の因子構造

○野上 智行¹, 向井 智哉² (¹筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群,
²東京大学法学政治学研究科)

要旨

犯罪者一般に対する原因帰属の因子構造を探索的に検討することを目的として調査を行った。結果、5 因子構造が確認されたが、その構造は犯罪学理論が想定するものとは異なったものであった。

P0-05

非行少年における報酬への反応性と知能・性格・態度との関連

○今村 悟也¹, 片桐 弘明², 木村 優香³ (¹大阪少年鑑別所, ²東京少年鑑別所,
³神戸少年鑑別所)

要旨

遅延及び確率価値割引課題, BIS/BAS 尺度を使用して, 非行少年の報酬に対する反応性の特徴と, 知能, 性格, 態度等との関連性を明らかにすることを目的とした。

P0-06

被養育経験がセンセーション・シーキングを媒介して逸脱行為に及ぼす影響

○数井 ひな¹, 岡本 英生² (¹奈良女子大学大学院, ²奈良女子大学)

要旨

大学生を対象にした調査により, どのような養育がセンセーション・シーキングおよび対人的疎外感に影響を及ぼし, さらに逸脱行為に影響を及ぼすかということを検討する。

P0-07

家族の犯罪傾向及び家族関係と非行との関連についての探索的研究

○青木 千景，内山 香奈子，安藤 友祐（仙台少年鑑別所）

要旨

家族の犯罪歴や反社会的集団所属歴といった犯罪傾向の有無と，家族への親和的態度の程度が，非行少年の問題性とどのように関連するか，探索的に研究する。

P0-08

特殊詐欺事犯の罪しよう感に関する研究

○森田 未希（札幌刑務所）

要旨

特殊詐欺事犯で受刑している比較的若年の男性受刑者について，事件後の罪しよう感の乏しさと個人的要因との関係性について検討する。

P0-09

一般市民における軽犯罪についての規範意識についてのインタビュー調査

○中田 友貴（立命館大学 OIC 総合研究機構）

要旨

本研究は，軽犯罪の観点から社会的逸脱について検討を目的とした。規範意識と他者における軽犯罪の逸脱行動の態度や予測についてインタビュー調査結果の報告を行う。

P0-10

褒められ・叱られ経験が親子関係を媒介して逸脱行為に及ぼす影響

○小林 芽瑠¹，岡本 英生²（¹奈良女子大学大学院，²奈良女子大学）

要旨

他者からの評価的フィードバックである褒め・叱りを受けた経験が，青年期における親子関係に与える影響，さらには逸脱行動に与える影響についても明らかにする。

P0-11

小学生のサイコパシー特性と反社会的行動軽視の関係における家族・友人・教師サポートの調整効果

○原田 知佳（名城大学）

要旨

小学 6 年生 86 名を対象に、サイコパシー特性と反社会的行動軽視との関係を検討したところ、友人や家族からのサポートが両関連を調整することが確認された。

P0-12

非行少年の自己愛傾向について

○児玉 梨沙¹，片桐 弘明¹，天田 正人²（¹東京少年鑑別所，²横浜少年鑑別所）

要旨

自己愛の病理性をより反映しながら、誇大型、過敏型の二側面を包括的に測定できる特徴を持つ PNI-J 等を使用し、非行少年の自己愛的傾向について探る。

P0-13

少年鑑別所において実施した P-F スタディ検査に対する非行少年の反応

○加藤 美沙，南 卓志（さいたま少年鑑別所）

要旨

少年鑑別所で実施した P-F スタディ検査に対する非行少年の反応を理論平均と比較し、P-F スタディ検査に現れる非行少年の反応の特徴を明らかにする。

P0-14

セルフコントロールと時間的展望が社会的迷惑行為に与える影響

○関 嵐月¹，岡本 英生²（¹奈良女子大学大学院，²奈良女子大学生生活環境科学系）

要旨

本研究ではセルフコントロールと時間的展望が社会的迷惑行為にどのような影響を与えているのかを検討した。

P0-15

非行少年の自己愛傾向と恥への対処行動について

○天田 正人¹，児玉 梨沙²，片桐 弘明²（¹横浜少年鑑別所，²東京少年鑑別所）

要旨

一見，両極端の性格特性を示す自己愛の2タイプについて，共通して存在しているのは恥の強さであり，その対処行動が外的特徴の差異に表れるとの仮説を立て，検証する。

P0-16

犯罪と立ち直りにジェンダーが与える影響（1）職員の意識調査の分析

○今村 有子¹，内山 博之²（¹仙台少年鑑別所，²仙台少年鑑別所山形少年鑑別支所）

要旨

矯正職員のジェンダー観や非行・犯罪行動との関連性についての認識及び処遇に当たって重視している点等を調査し，立ち直りに必要な処遇及び処遇環境について検討する。

C. 各種犯罪・犯罪者・捜査

P0-17

質問方法が回答者の漏洩感におよぼす影響

○小野 洋平（駒澤大学）

要旨

CIT を模した課題で提示する質問の語尾，質問形式，イントネーションを操作した結果，回答者が感じる漏洩感に質問の語尾が影響を及ぼすことが示唆された。

P0-18

犯行領域の個人内変動の大きさと関連する犯行特徴について

○横田 賀英子，大塚 祐輔，平間 一樹，渡邊 和美（科学警察研究所）

要旨

住宅対象窃盗の連続犯について，犯行領域の変動が大きい者と小さい者で初期犯行の特徴が異なるか，初期犯行の特徴から犯行領域の変動の大きさを推定可能か検討した。

P0-19

移動障壁を考慮した犯人の拠点推定領域の絞込みについて

○杉野 信太郎（福島県警察本部刑事部科学捜査研究所）

要旨

地理的プロファイリングにおける犯人の拠点推定に関して，疑惑領域で示される推定領域を移動の妨げとなる地理的特徴を考慮してさらに絞り込めるかどうか検討した。

P0-20

更生保護施設の運営の現状に関する実態報告

○小俣 謙二，古曳 牧人，川邊 譲（駿河台大学）

要旨

筆者らはこれまで更生保護施設建設受け入れの条件に関する調査を行い，報告してきた。今回は更生保護施設の運営実態について予算，収容人数，罪種の扱いなどを報告する。

P0-21

女子受刑者の小児期体験（ACEs）に関する研究（2）～発生時期及び頻度に着目して～

○末信 祥穂¹，森川 幸枝²，村島 楓³，野村 栄太³（¹人事院，²和歌山少年鑑別所，³和歌山刑務所）

要旨

女子受刑者の小児期体験（ACEs）の発生時期と頻度，及びその他の被害体験（いじめ，DV）に着目し，それが犯罪や人格傾向にどのように関連しているかを検討する。

P0-22

妨害運転に関する事件資料に基づく被処分者の認知・感情に関する質的分析

○小菅 律，岡村 和子，中野 友香子，藤田 悟郎（科学警察研究所）

要旨

2016～19年に発生した妨害運転に関係する事件113件の事件資料に基づき，被処分者の事件に関する発言を対象としてKJ法等を用いた質的分析を行った結果を報告する。

P0-23

小売店舗における従業員の防犯教育プログラムの開発（3）：レジ袋有料化による万引き犯罪の現状

○大久保 智生¹，皿谷 陽子²（¹香川大学，²福山大学）

要旨

本研究では，小売店舗における従業員の防犯教育プログラムの開発を目的として，レジ袋有料化による万引き犯罪の現状について検討を行った。

P0-24

大学生の親密関係に関する調査

○小畑 千晴¹，中島 富美子²，青木 宏³（¹岡山県立大学，²作新学院大学，³徳島文理大学）

要旨

大学生を対象にした親密関係に関する調査を警察と共同で実施した。若者世代の交際に関する意識を調査し，加害被害の未然防止に役立てることを目的として行われた。

P0-25

大学生の親密関係に関する調査 その2

○中島 富美子¹，小畑 千晴²，青木 宏³（¹作新学院大学，²岡山県立大学，³徳島文理大学）

要旨

警察と共同で実施した大学生約800人を対象にした親密関係に関する調査をもとに，大学生の愛着スタイルについて，さらにストーキング傾向と愛着スタイル等についてその関連性を検討する。

P0-26

隠匿情報検査における被検査者の動機づけが生理的反応に与える影響

○比留間 元丈（福岡県警察科学捜査研究所）

要旨

本研究では，制御焦点理論における予防焦点群または促進焦点群に分類した実験参加者に模擬窃盗課題に関する隠匿情報検査を行い，両群の反応差について比較検討する。

P0-27

他者のもたらす誤情報への同調が目撃記憶へ及ぼす影響—多数派と少数派の場面において—

○橋爪 涼¹, 若林 宏輔², 仲 真紀子² (¹立命館大学大学院, ²立命館大学)

要旨

目撃記憶において, 多数の他者の意見として与えられた誤情報によって間接的な同調が生じるかどうかを統制条件・多数派条件・少数派条件の3つの条件を設定して検討した。

P0-28

受刑者の子の養育に関する男女比較(1)―虐待的行為を生じやすい男女受刑者の特徴の分析―

○吉原 大樹¹, 佐々木 彩子² (¹法務総合研究所国際事務部門, ²国連アジア極東犯罪防止研修所)

要旨

本研究では受刑者の子どもに対する虐待的行為の高低によって小児逆境体験(ACEs)等の違いや男女差を検討し, 虐待的行為を生じやすい受刑者の特徴を分析する。

P0-29

受刑者の子の養育に関する男女比較(2)―男女受刑者の虐待的行為を予測するリスク要因等の分析―

○佐々木 彩子¹, 吉原 大樹² (¹国連アジア極東犯罪防止研修所, ²法務総合研究所国際事務部門)

要旨

小児期逆境体験(ACEs), ネガティブな養育態度, パートナーとの関係性などのリスク要因等が, 男女受刑者の子に対する虐待的行為に与える影響やその男女差を分析する。

D. 防犯・被害・地域

P0-30

地域援助における課題と展望Ⅰ―被虐待児に対する地域支援の困難性―

○山形 千遥¹，柳澤 寿子¹，松田 慎之介²，反中 亜弓¹，浅野 百々子¹（¹名古屋少年鑑別所，²矯正研修所効果検証センター）

要旨

生徒児童を対象とする各種相談機関における被虐待児支援における困難性を調査し，法務少年支援センターの今後の役割や支援の在り方について検討する。

P0-31

地域援助における課題と展望Ⅱ―多職種連携の視点から―

○反中 亜弓¹，柳澤 寿子¹，山形 千遥¹，松田 慎之介²，浅野 百々子¹（¹名古屋少年鑑別所，²矯正研修所 効果検証センター）

要旨

生徒児童を対象とする各種相談機関の職員に対して専門職連携コンピテンシーを調査し，今後の法務少年支援センター職員の支援や連携のあり方について検討する。

P0-32

防犯対策実施の告知が犯罪不安に与える影響の検討 ―防犯対策が想定する罪種の違いに着目して―

○柴田 侑秀^{1, 2}，中谷内 一也³（¹同志社大学大学院，²日本学術振興会，³同志社大学）

要旨

防犯対策の告知が犯罪不安に与える影響を検討した。その結果，重大な犯罪を想定した対策を告知すると犯罪不安が上昇したが，軽微な犯罪を想定した対策を告知しても変化しなかった。

P0-33

楽観性バイアスがリスク評価に与える影響

○蘇 雨青¹，田 楊¹，桐生 正幸²（¹東洋大学大学院，²東洋大学）

要旨

本研究では，犯罪の発生が認知された地点と犯罪の発生が認知されなかった地点の画像刺激を利用し，異なる地点環境に対する楽観性バイアスがリスク評価に及ぼす影響を検討することが本研究の目的とする。

P0-34

法務少年支援センターにおける個人援助の終結の在り方について

○東海林 弓月¹，谷口 五郎¹，服部 広正¹，植田 満¹，濱田 耕一郎¹，西邑 翼²
（¹岡山少年鑑別所，²広島少年鑑別所鳥取少年鑑別支所）

要旨

当支援センターの地域援助における相談支援及び終結の状況等を振り返り，相談者のニーズ・要望に応じた援助の在り方を検討し，心理相談機関としての機能強化につなげる。

P0-35

大学生における悪徳商法や詐欺に関する研究 ―脆弱性や不安感との関連について―

○周 子超¹，蘇 雨青²，滝口 雄太²，桐生 正幸³（¹元東洋大学社会学研究科，²東洋大学大学院，³東洋大学）

要旨

リスクな心理傾向と特性不安尺度を用いて，悪徳商法の被害可能性を推定する際に，脆弱性を反映できるリスクな心理傾向と影響要因の不安感情の関連を検討した。

P0-36

COVID-19 が犯罪発生に与えた影響—時系列解析による関東地方の分析

○岡本 英生¹，森 丈弓²，関 嵐月³（¹奈良女子大学，²甲南女子大学，³奈良女子大学大学院）

要旨

COVID-19 が犯罪発生に与えた影響について，関東地方の刑法犯認知件数のデータを時系列解析の手法で分析した。

P0-37

SNS を介した未成年者の性的犯罪被害のプロセス

○桐生 正幸（東洋大学）

要旨

SNS を介した未成年者の性的犯罪被害に関してインターネット調査などを実施し，その実態と被害に遭うまでのプロセスを検討した。それら分析結果と予防策について報告する。

P0-38

万引き防止行動促進要因の探索的検討—従業員裁量の職務行動と防犯意識及びホスピタリティ，職務満足感の関係について—

○皿谷 陽子^{1, 2}，平 伸二¹，仲 真紀子³（¹福山大学，²立命館大学大学院，³立命館大学）

要旨

万引き防止行動促進要因を検討するため，小売店舗の従業員裁量の職務行動と防犯意識及びホスピタリティ，職務満足感の万引き防止行動との関連を検討する。

P0-39

大学生におけるインターネット情報との接触と犯罪不安との関係

○松嶋 祐子（専修大学）

要旨

従来，新聞や TV などのマスメディアと犯罪不安の関連が検討されてきた。近年ではインターネット・SNS の利用率が高く，これらをよく利用する大学生における犯罪不安を検討する。

P0-40

中国語版 AMMSA 尺度の開発に関する探索的研究

○田 楊（東洋大学大学院）

要旨

本研究では，Acceptance of Modern Myth about Sexual Aggression scale(略称 AMMSA 尺度)を中国語に翻訳し，探索的因子分析を用いて，中国語版の AMMSA 尺度の因子構造を明らかにすることを目的とした。

E. 査定・評価

P0-41

幼児の受動態や使役を含む質問に対する回答の検討：WH 質問と選択式質問を用いて

○久原 恵理子，宮寺 貴之，藤原 佑貴，和智 妙子，小林 寿一（科学警察研究所）

要旨

幼児を対象とし，受動態や使役を含む質問について，質問の種類による正答率の違いを検証するため，WH 質問と選択式質問を用いて実験を行った。本研究ではその結果を報告する。

P0-42

TAT の研究の動向について

○中島 賢¹，宮城 マキ子²，田口 みのり³，九里 真緒³，林 桜子⁴（¹広島矯正管区，²小倉少年鑑別支所，³横浜少年鑑別所，⁴千葉少年鑑別所）

要旨

心理検査（投影法）の一つである TAT に関する文献及び先行研究を概観し，その研究動向を整理するとともに，今後の発展可能性について考察する。

P0-43

非行少年における報酬への反応性と処分歴との関連

○片桐 弘明¹，今村 悟也²，木村 優香³（¹東京少年鑑別所，²大阪少年鑑別所，³神戸少年鑑別所）

要旨

遅延及び確率価値割引課題，BIS/BAS 尺度を使用して，非行少年の報酬に対する反応性の特徴と，過去の処分歴との関連性を明らかにすることを目的とする。

P0-44

少年鑑別所における被観護在所者に対するサークル・テストによる特性理解の試み

○山口 義弘（津少年鑑別所）

要旨

本研究では，観護措置中の少年を対象にサークル・テスト及び質問紙調査を行い，サークル・テストにおける円の描き方と時間的認識等との関連を検討した。

P0-45

再犯リスク尺度 Inventory of Offender Risk, Needs, and Strengths (IORNS) 日本語版作成の試み

○浅見 祐香^{1, 2}, 野村 和孝³, 嶋田 洋徳³ (¹早稲田大学大学院人間科学研究科,
²日本学術振興会特別研究員, ³早稲田大学人間科学学術院)

要旨

本研究では、一般的な再犯リスクを測定する Inventory of Offender Risk, Needs, and Strengths (IORNS) 日本語版を作成し、元受刑者を対象に質問紙調査を実施し、妥当性の検討を行う。

P0-46

男性受刑者の再犯リスクと反則行為の生起との関係についての検討

○鈴木 純一, 石川 友史, 森田 未希, 川崎 健一郎 (札幌刑務所)

要旨

男性受刑者の反則行為の生起について、G ツールの再犯リスクによって群分けを行って比較検討し、再犯リスクと反則行為の生起の関係について検証した。

P0-47

受刑者の就労に関する心理的な要因を測定する尺度作成の試み

○山岡 あゆち (法務省矯正局成人矯正課)

要旨

本研究は刑務所在所中の受刑者の就労に対する価値観や意欲、就労における必要な具体的な行動についての意識を測定する心理尺度の作成を試みてその信頼性を検討した。

P0-48

非行のある子の親が初回面接に訪れるまでの主観的体験

○前田 将太（さいたま少年鑑別所）

要旨

少年鑑別所の地域援助で作成された面接記録を用いて計量テキスト分析を行い、親による子の非行の捉え方や来談を後押しした要因といった親の主観的体験を推論する。

P0-49

アイオワギャンブル課題を用いた非行少年の意思決定における特徴の検討（3）

○仲里 雄希¹，馬場 中臣²，遊間 義一³，金澤 雄一郎⁴，河原 哲雄⁵，東條 真希³，荻原 彩佳³，石田 祥子⁶（¹東京西法務少年支援センター，²加古川学園，³兵庫教育大学大学院，⁴国際基督教大学，⁵埼玉工業大学，⁶埼玉県警察本部）

要旨

少年鑑別所に入所した少年に対しアイオワギャンブル課題を実施して得られたデータに加え、IQ や非行内容といった種々の変数を用い、少年の意思決定と再犯リスク等の関連についてより詳細に探る。

P0-50

性的問題指導の事前・事後アセスメントに見られる TAT 反応の特徴について～再入／非再入の視点から

○依田 茂久，古川 直美，今村 洋子（OSS サービス株式会社）

要旨

性犯罪に関わる問題改善のためのプログラムを受講して出所した者の指導前後の TAT 反応を、再入・非再入別に比較・検討し、効果的なフィードバック・セッションのあり方を考える。

P0-51

女性薬物事犯者の動機等に関する分析—PAC 分析を活用した処遇調査の試行—

○平川 奈々，山下 啓子（札幌刑務支所）

要旨

個々人の態度やイメージを測定する技法である PAC 分析を用いて，犯罪に係る受刑者の考えをより深く理解し，受刑者とともに再犯防止策を見いだすことを試みる。

P0-52

高校生の TAT 反応と攻撃性との関連（１）

○山根 創，遊間 義一（兵庫教育大学大学院）

要旨

高校生を対象に TAT と日本版 Buss-Perry 質問紙を実施し，TAT 反応に表れる被検者の攻撃性の特徴と，日本版 Buss-Perry 質問紙の各下位尺度得点との併存的妥当性について検討した。

P0-53

文章完成法を活用した心理アセスメント～着眼点（形式面）の洗い出し

○岡田 拓，黒川 潤，長谷川 祥（島根あさひ社会復帰促進センター）

要旨

文章完成法の解釈において，文章の内容に踏み込まない形式的な手がかり（書字の特徴，文量等）を洗い出し，読み解く際の着眼点を整理する。

P0-54

男性受刑者への特化ユニットプログラムの効果① ～受講者の自己評価の分析～

○高田 ゆり子¹，坂田 由美子¹，神山 和也²（¹筑波大学，²喜連川社会復帰促進センター 小学館集英社プロダクション）

要旨

特化ユニットプログラムの効果検証のために，受講者に実施したプログラム直前，直後，3 か月後の質問紙調査データを分析しプログラムの効果を検証する。

P0-55

男性受刑者への特化ユニットプログラムの効果② ～刑務官からみた受講者の変化～

○坂田 由美子¹，高田 ゆり子¹，神山 和也²（¹筑波大学，²喜連川社会復帰促進センター 小学館集英社プロダクション）

要旨

特化ユニットプログラム受講による受講者の変化について，担当刑務官に実施したプログラム直前，直後，3 か月後の質問紙調査データを分析しプログラムの効果を検証する。

P0-56

開放処遇施設における受刑者の逃走リスクについてⅡ

○奥村 俊樹¹，福場 和雄²，菅原 達也³（¹松山刑務所，²松山少年鑑別所，³丸亀少女の家）

要旨

受刑者の逃走リスクを査定するに当たって，適応状況や現実対処能力を把握することは重要である。本研究では，人生グラフテスト（LGT）及びTATを用いて，対象者（受刑者）の適応様式を明らかにしていく。

P0-57

男性受刑者の反則行為の予測に係る要因のリスク段階の検討

○石川 友史，鈴木 純一，森田 未希，川崎 健一郎（札幌刑務所）

要旨

男性受刑者の個人特徴から抽出された反則行為のリスク要因を，その閾値によってリスク段階を設定し，リスク段階に応じた群分けが可能かどうかについて検証した。

P0-58

刑事司法分野におけるリスクニーズアセスメントの倫理的課題

○寺村 堅志（常磐大学）

要旨

RNR モデルを基盤にしたリスクニーズアセスメントは、各種意思決定や処遇選択等に大きな影響を与えてきた。本報告では、倫理面での諸課題に関する議論を整理し、本邦実務上の課題を検討したい。

日本犯罪心理学会第 59 回大会賛助団体御芳名

株式会社 風間書房

株式会社 現代人文社

株式会社 誠信書房

公益財団法人 日工組社会安全研究財団

株式会社 北大路書房

株式会社 金剛出版

株式会社 有斐閣

(五十音順)

本大会を開催するにあたり、上記の機関・企業より多大なご支援をいただきました。
ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2021 年 10 月

日本犯罪心理学会第 59 回大会準備委員長

原 田 隆 之

日本犯罪心理学会第 59 回大会準備委員会

委員長	原 田 隆 之 (筑波大学)
委員	越 智 啓 太 (法政大学)
	川 崎 智 之 (東京家庭裁判所)
	桐 生 正 幸 (東洋大学)
	嶋 田 洋 徳 (早稲田大学)
	鈴 木 拓 朗 (東京大学)
	高 橋 智 晃 (東京矯正管区)
	谷 真 如 (東京保護観察所)
	角 田 亮 (新潟保護観察所)
	野 村 和 孝 (早稲田大学)
	三 浦 公 士 (東京少年鑑別所)
	吉 村 雅 世 (府中刑務所)

五十音順

日本犯罪心理学会第 59 回大会プログラム

主 催: 日本犯罪心理学会

共 催: 筑波大学

発行月: 2021 年 8 月

発行者: 〒112-0012

東京都文京区大塚 3-29-1

筑波大学東京キャンパス 原田隆之研究室内

日本犯罪心理学会第 59 回大会準備委員会

2022 年度 研究助成募集のご案内

公益財団法人 日工組社会安全研究財団は、人々が安全にまた安心して生活できる社会の実現を妨げる諸問題を解決するための研究を助成しています。

< 助成対象分野 >

少年非行防止対策、子ども・少年・女性・高齢者を対象とする犯罪等の防止対策、組織犯罪対策、薬物銃器犯罪対策、犯罪の国際化への対策、犯罪被害者支援対策、マイノリティ・マジョリティの安全安心な共生のための対策等、社会安全問題に関する社会科学の研究を主として助成の対象といたします。

募集期間(予定) 2021 年 11 月 1 日(月)～同 11 月 30 日(火)

助成種別	助成の対象	1 件当たりの助成額
一般研究助成	個人又はグループによる研究	300 万円を上限とする。
若手研究助成	40 歳以下の個人研究	100 万円を上限とする。

決定時期: 2022 年 3 月上旬

助成期間: 助成金交付時(2022 年 4 月)より 1 年半

募集に関する詳細、助成件数・採択研究課題等過去の実績は、当財団ウェブサイトをご覧ください。

社安研ウェブサイト <https://www.syaanken.or.jp/>



公益財団法人 にっこうそ 日工組社会安全研究財団

東京都千代田区内神田 1-7-8 大手町佐野ビル 6 階

TEL 03-3219-5177



有斐閣

出版案内

東京・神田・神保町2 TEL:03-3265-6811
http://www.yuhikaku.co.jp/

(表示価格は税込。消費税込みの金額が定価です。)

司法・犯罪心理学

(有斐閣ブックス
二七五〇円)

藤岡淳子編 司法・犯罪心理学を基礎から体系的に解説。犯罪捜査や裁判過程、矯正施設での処遇など司法現場の視点も盛り込み、司法・犯罪臨床実践の土台を作る。司法・犯罪分野で心理師が関わる各種制度も解説。公認心理師必修科目「司法・犯罪心理学」に対応。司法・犯罪心理学について学ぶならこの一冊。

法と心理学への招待

四六判 二七五〇円

サトウタツヤ・若林宏輔・指宿 信・

松本克美・廣井亮一著 心理学者と法学者がわかりやすく解説する法心理学入門。「実験―臨床」という心理学的次元、「民事―刑事」という法学的次元の両軸から体系的に法心理学を解説。悪質商法から司法臨床まで、豊富な事例で日常に生きる法心理学の世界を案内する。

心理職・援助職のための法と臨床

A5判 二七五〇円

廣井亮一・中川利彦・児島達美・水町第一郎著

●家族・学校・職場を支える基礎知識
現場(家庭・学校・職場)が依拠する法律・行政サービス等の知識や考え方を備えておくことは、最適な支援を行う上で必須の条件である。事例をもとに対応の実際を丁寧な解説。公認心理師「関係行政論」のテキストにも最適。

有斐閣現代心理学辞典

子安増生・丹野義彦・箱田裕司監修

基礎から応用まで全領域を網羅し、最新動向もおさえた、心理学辞典の決定版。簡潔・平易な解説と、充実の見よ項目・関連項目索引リストが、初学者・実務家まで幅広い学習者の学びをサポート。公認心理師時代必須の「法/施設/専門職名」項目も収録。



A5判 七〇四〇円

2021年
2月新刊

文庫リスト無料公開中
「有斐閣」コードからご覧ください

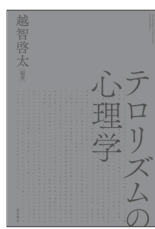


http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641002661

テロリズムの心理学

越智啓太 編著

テロは人間や人間の集団が、偏見や怒り、集団間葛藤等によって引き起こすからこそ、その対策には心理学の知見は欠かせない。最新の研究内容を織り込んで多角的にテロリズムを考察した決定版。 [3080 円]



高齢者の犯罪心理学

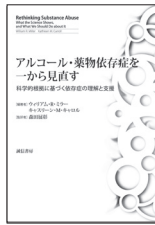
越智啓太 編著

高齢加害者・被害者の心理、認知、認知症がもたらす影響など、国内外の最先端の研究成果を、犯罪心理学の第一人者らが解説。超高齢社会に突き進む日本が対策を練らねばならない喫緊の課題に切り込む。 [3080 円]



アルコール・薬物依存症を一から見直す

【科学的根拠に基づく依存症の理解と支援】
W.R.ミラー・K.M.キャロル 編著 森田展彰 監訳 佐藤明子 訳
依存症についての科学的な新知見が、日本の依存症支援で「あたりまえ」となってしまったことの根底を問い直し、効果的な支援を導く。 [4400 円]



大人の発達障害の真実

【診断、治療、そして認知機能リハビリテーションへ】 傳田健三 著
大人の発達障害に悩む患者の実態と特徴、適切な診断と対応―心理教育、二次障害の治療、薬物・精神療法、リハビリテーション―の全てを網羅した決定版。 [2640 円]



心理学のための統計学9

犯罪心理学のための統計学

【犯人のココロをさぐる】

松田いづみ・荘島宏二郎 著

犯人像の絞り込みを行うプロファイラーが、多次元尺度法、決定木、生存時間分析など、現場で活きる統計学を解説する。 [2860 円]

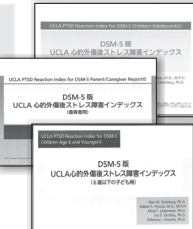


DSM-5 版 UCLA 心的外傷後ストレス障害インデックス

・児童青年期用 / 養育者用
/ 6歳以下の子ども用

各 440 円

*書店様でのお取り扱いはありません。
お電話、FAXにて承ります。



誠信書房
SEISHIN SHOBO

Tel 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-6

http://www.seishinshobo.co.jp/

@seishinshobo

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

http://www.kitaohji.com

犯罪行動の心理学 [原著第6版]

J. ボンタ・D. A. アンドリュース著 原田隆之訳
A5上製・544頁・7150円（税込） 膨大なデータに基づいた犯罪リスク要因を示し、科学的知識をもとにしたアセスメントや治療サービスという実践に導く。人間の個性や多様性への畏敬の念と心理学の実践を結びつけ、その重要性を示す。世界中の犯罪・司法臨床現場に影響を与えた原著第6版。

取調べにおける被誘導性

—心理学的研究と司法への示唆— A. M. リドリー他編 渡邊和美監訳 A5・312頁・4180（税込） 取調べの可視化・高度化が注目されるなか、対象者の被誘導性とその配慮は、重大な関心事項となっている。被誘導性について、誘導や服従性などの関連領域をふまえてつつ先行研究を網羅、犯罪学や犯罪心理学の活きた知見として、最近の研究を紹介。

ケースで学ぶ犯罪心理学

越智啓太著 A5・184頁・2090円（税込） 殺人、テロ、性犯罪、ストーキング、DV、放火など、事例（罪種）ごとに犯罪心理学の知見を紹介。捜査心理学や犯罪者行動分析を中心としたコンパクトな入門書である。実際の事件の解説が70余り盛り込まれており、臨場感そのままに犯罪心理学を学ぶことができる。

臨床心理 公認心理師のための「基礎科目」講義

下山晴彦監修 宮川 純・下山晴彦・原田隆之・金沢吉展編著 B5・224頁・3300円（税込） 心理学や臨床心理学の全体像、エビデンスとは何か、心理師の倫理とは何か。公認心理師としての「下地」を学ぶ上で最適の一冊。現代臨床心理学を牽引するエキスパートによる講義を紙面で再現。講義動画と連携して重要テーマを学べるシリーズ第2弾。

テキスト 司法・犯罪心理学

越智啓太・桐生正幸編著 A5上製・632頁・6380円（税込） 本物の犯罪心理学を学ぶための骨太な教科書。「犯罪行動」「捜査・防犯・矯正」の2部で構成。プロファイリング、ポリグラフ検査、目撃証言、取調べなど、行動科学的な犯罪心理学を中心に、実証的知見を数多く取り入れて編集。日本における真の犯罪心理学者の姿が浮かぶ仕掛け。

虚偽検出

—嘘を見抜く心理学の最前線— P. A. ギヨンゴビら編著 荒川 歩・石崎千景・菅原都夫監訳 A5上製・400頁・4950（税込） 犯罪・警察・法の心理学における研究の現在を一瞥。生理反応測定等の確立された手法を網羅的に解説。記憶や認知的負荷といった概念との関連性を論じ、不安に基づく伝統的な手法を「認知的アプローチ」で補完することを提案。

シリーズ 心理学と仕事16 司法・犯罪心理学

太田信夫監修 桐生正幸編集 A5・160頁・2310円（税込） 誕生からまだ歴史の浅い「司法・犯罪心理学」の定義や理論、研究と実務などを説明し、関連する各組織における具体的な仕事と研究知見、防犯、具体的な犯罪について解説。基本と応用の両面から捉え、国家資格「公認心理師」めざす人のために幅広い視点で学べるよう構成を工夫。

臨床心理 公認心理師のための「心理査定」講義

下山晴彦監修・編著 宮川 純・松田 修・国里愛彦編著 B5・224頁・3410円（税込） 心理的アセスメントの技法全体を包括的に学ぶ。パーソナリティ検査、症状評価尺度、発達検査をはじめ、様々な心理検査法の概要を整理。更には知能検査と神経心理学的検査を臨床場面でどう活用するのかも示す。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事 [全20巻]

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2200～2860円（税込）

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |